



じょし 所有を表す助詞

ポイント

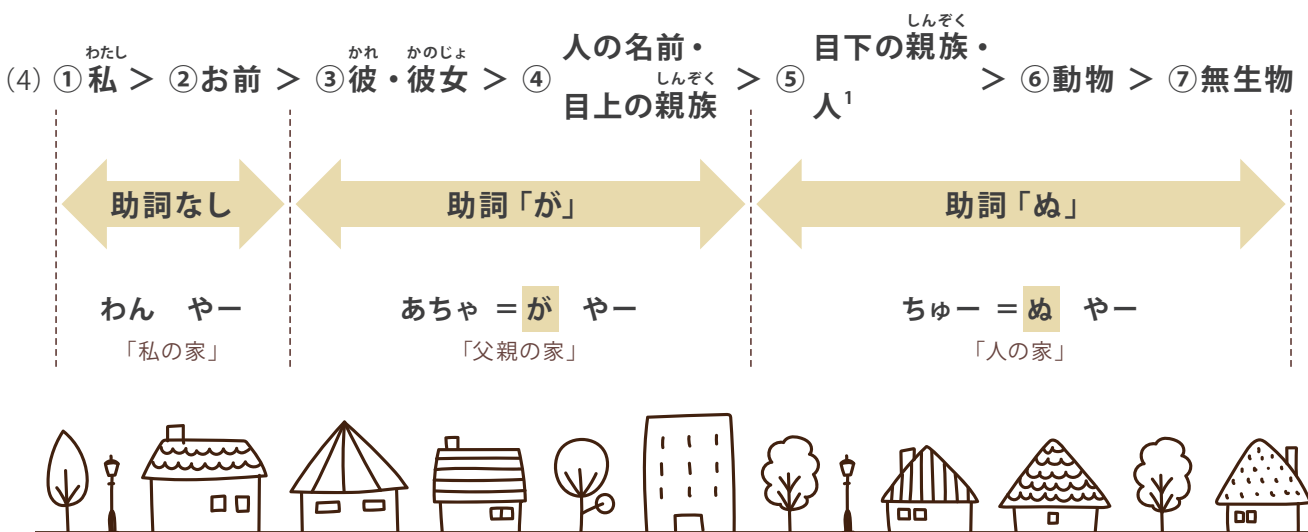
- 日本語の「～の (「私の本」など)」は、しまむにでは、
①「何も付けない(助詞なし)」、② 助詞「が」、③ 助詞「ぬ」のいずれかで表す。
- ①、②、③の表し方は、前の名詞の意味によって使い分ける。

日本語では「私^{わたし}の家」「父^{ちち}の家」「人^{ひと}の家」など、ものの持ち主などを表す時に「の」という助詞^{じょし}を使います。しまむにでは、日本語の「の」^のに対応する言い方として3種類の言い方があります。

(1)では「家」の持ち主の「私^{わたし}」に何も助詞^{じょし}がついていません。(2)では「家」の持ち主の「父親^{ちち}」に、助詞「が」がついています。(3)では「家」の持ち主の「人^{ひと}」に、助詞「ぬ」がついています。

(1) わん やー 私 家 わたし 「私の家」	(2) あちゃ = が やー 父親 の 家 「父親の家」	(3) ちゅー = ぬ やー 人 の 家 「人の家」
----------------------------------	------------------------------------	----------------------------------

この3つの表し方は、どのように使い分けられているのでしょうか？ この使い分けは、「主語と目的語」の回でも出てきた「有生性の階層^{ゆうせいせい かいそう}」という言語学の理論^{りろん}で説明できます。「有生性の階層^{ゆうせいせい かいそう}」とは、簡単にいうと「名詞を(自分に近い)生き物らしい順番にならべたもの」で、しまむにでは、(4)のようになります。



1 「男」「女」などの抽象的な人の名詞。

所有(～の)を表す時に、

- ① 私、②お前の名詞は、助詞を何もつけません。
- ③彼・彼女と④人の名前・目上の親族の名詞は、助詞「が」を付けます。
- ⑤目下の親族・人⑥動物⑦無生物は、助詞「ぬ」を付けます。

このように、しまむにで所有や所属などを表すときには、名詞の意味によって、助詞の有無や種類を使い分けているのです。

練習問題

以下の名詞を使って、①～⑥をしまむにに直してみましょう。

わん (私)	うら (あなた)	みー (兄)	いんが (男)
くわー (子・子ども)	みやー (猫)	ふい (声)	たろう (太郎)

「ゝ」は、小さい「っ」のように、のどをしめる音を表す。

- ① 私の子ども ()
- ② 太郎の子ども ()
- ③ 猫の子ども ()
- ④ 男の声 ()
- ⑤ 兄の声 ()
- ⑥ あなたの声 ()